

- 目的:「絵本の読み聞かせ」を通して、他者を意識し、他者に伝わる表現となるよう工夫する。
- 手立て:ICTの活用とともに、目標を立てて振り返りを行うことで、自己調整力の育成を図る。
- 学習教材の活用方法について(部分的な活用可能)

※「個人による読み聞かせ」

教材名	活用の方法・目的
① 学習の流れ	学習の流れを視覚的に捉え、見直しをもてるようにする。
② 本を選ぼう	インタビューによって聞き手の興味・関心を知る。 絵本を選ぶときの手立てとする。
③ 最初の練習を録画しよう	仕方を学ぶ前に、最初の練習動画を撮影しておく。 最初と本番の動画を見比べることで、自己の変容を明確に認識し、自己理解を深められるようにする。
④ 絵本の「読み聞かせ」の仕方を学ぼう (動画はりつけ用)	「読み聞かせ」の動画をインターネット上で検索し、学習教材にはりつける。動画を自分のペースで確認しながら、主体的に学習することができる。
⑤ 「読み聞かせ」の注意点	注意事項の要点をまとめているので、ポイントを確認するときに用いる。他者が評価するときの参考にする。
⑥ 「読み聞かせ」の練習をしよう	目標を立てて練習に取り組む。練習を動画に撮り、見直すことで、できたこと・できていないことを理解する。
⑦ おしらせの作成に向けて	おしらせを作成するために、どのようなことを伝えたいかを考える。例を示すことで、書くことに苦手意識をもつ児童・生徒に対する手立てとする。
⑧ おしらせをつくろう(例あり)	おしらせの例を示すことで、できあがりのイメージをもつ。 共同編集することで、他の表現を参考にすることができる。
⑨ 「読み聞かせ」のリハーサルを録画しよう	リハーサルの様子を動画に撮る。動画を見直すことで、気づいたことを本番に生かせるようにする。
⑩ 「読み聞かせ」の本番を録画しよう	本番の様子を動画に撮る。動画を見直すことで、自己理解を深める。

※「学習の記録」(例があるので参考にしてください)

学習過程を可視化することで学習内容を想起しやすくなり、自己理解を深める手立てとする。

※「学びのシート」(例があるので参考にしてください)

評価を数値化することで変容を視覚的に捉え、自己を客観的に見つめる手立てとする。活動をまとまりごとに比較することで、自己の変容を把握しやすくなる。

※「評価表」

「学びのシート」にある、評価表を1枚のシートにしたもの。自己評価をするときに使う。

※「協働による読み聞かせ」（パペットを使った人形劇風読み聞かせ）

教材名	活用の方法・目的
① 学習の流れ	学習の流れを視覚的に捉え、見直しをもてるようにする。
② 「読み聞かせ」の最初の練習を録画しよう	仕方を学ぶ前に、最初の練習動画を撮影しておく。最初と本番の動画とを見比べることで、自己の変容を明確に認識し、自己理解を深められるようにする。
③ パペットの使い方の参考にしよう (動画はりつけ用)	パペットの使い方の動画をインターネット上で検索し、学習教材にはりつける。動画を自分のペースで確認しながら、主体的に学習することができる。
④ パペットを使った読み聞かせの注意点	注意事項の要点をまとめているので、ポイントを確認するときに用いる。他者が評価するときの参考にする。
⑤ 「読み聞かせ」の練習をしよう	目標を立てて練習に取り組む。練習を動画に撮り、見直すことで、できたこと・できていないことを理解する。
⑥ おしらせの作成に向けて	おしらせを作成するために、どのようなことを伝えたいかを考える。例を示すことで、書くことに苦手意識をもつ児童・生徒に対する手立てとする。
⑦ おしらせ 例は個人による読み聞かせ教材を参照	おしらせの例を示すことで、できあがりのイメージをもつ。共同編集することで、他の表現を参考にすることができる。
⑧ 「読み聞かせ」のリハーサルを録画しよう	リハーサルの様子を動画に撮る。動画を見直すことで、気づいたことを本番に生かせるようにする。
⑨ 「読み聞かせ」の本番を録画しよう	本番の様子を動画に撮る。動画を見直すことで、自己理解を深める。
チェックリスト	協働するメンバーや友達などにチェックしてもらうことで、新たな気づきを得る機会とする。対話によって、一人の気づきを全体の学びへとつなげる。

○効果

- ・動画を活用することで、児童・生徒の主体的な学びを促し、自己理解を深めることにつながる。特に、客観的に自己を振り返ることができるので、他者に伝わりやすい表現を考える機会となる。
- ・学習過程を学習の記録として可視化することで、目標達成に向けた取組や改善策が明確になる。また、できたことを視覚的に捉えることができ、自己有用感の醸成にもつながる。
- ・必然的な場面や状況の設定、目標の明確化により、児童・生徒が、誰に向けて何をすることが必要なのかを具体的に考察、学習することができるので、活動が活性化する。聞き手の反応・他者評価(称賛)によって、自信や人に役立つ喜びなどを体験する機会となる。